

# 教育改善のための授業担当教員へのアンケート 調査結果と分析

新潟大学農学部教育検討委員会

## A Brief Discussion on the Results of Questionnaires to the Teaching Staff in the Faculty of Agriculture for the Improvement of Class Quality

Committee for Improvement of Education, Faculty of Agriculture,  
Niigata University

To improve teaching methods and class quality, the Committee for Improvement of Education conducted a questionnaire on how the teaching staff in the Faculty of Agriculture evaluated the attitude of students toward a lesson. The committee conducted a questionnaire on October, 1997 and received 72 responses from 102 teaching staff, including non-faculty member and staff belonging to the Graduate School of Science and Technology.

The teaching staff consider that the student's attitude toward the class is relatively good and that the students understand the purposes and contents of lecture by their explanation. A lot of teaching staff also consider that the purpose of the lecture described on the syllabi are fully accomplished. However, from the student's evaluation for the lecture and the results of the test, we dare say that a deep gap between the feeling of teacher and the impressions or the response of student to the lecture is present. Concerning the marking of the credit, almost all the teacher consider that the strict marking on the basis of the number of the attendance and score of the test is required.

It is necessary to change the passive attitude of student to the lectures accompanied with the continuous enthusiasm of teaching staff for the further improvement of the quality of education.

**Key words:** Improvement of education, Class quality, Questionnaires, Teacher's evaluation, Credit marking

### 1. はじめに

農学部教育検討委員会では、カリキュラム改善の一環として、学生を対象としたアンケート調査（学生による授業評価）を数度にわたって実施し、その結果を調査報告書にとりまとめ公表してきた（新潟大学農学部教育検討委員会、1996、1997、1998 a、1998 b）。教育改善の検討に当たっては、授業について学生からの意見を聴取すると同時に、授業担当教員が、どう捉えているかを調査することも重要である。

新潟大学大学教育開発センターが実施した、教養科目担当教員へのアンケート調査の調査項目（1996）を参考に調査表を作成し、附属施設、自然科学研究科、

及び非常勤講師を含む農学部の授業を担当する全教員に調査用紙を配布し、平成9年10月に集計しその結果を分析したので、ここに報告する。

各学科、附属施設、自然科学研究科及び非常勤講師におけるアンケートの実施状況を表1に示す。表のなかの（ ）の回答科目数は、複数の科目を担当している教員がいるために授業担当教員数よりも多いものがある。ただし、自然科学研究科の専任教員ならびに非常勤講師からの回答科目数は、担当教員数に達しなかった。特に、非常勤講師からの回答数が低かったが、やむを得ないことかもしれない。回答率は、回答数/授業担当教員数として算出したが、合計で76.4%に達し、学科別では農業生産科学科の82.6%、応用生物化学科

94.1%、生産環境科学科87.5%となり、附属施設では100%となっている。非常勤講師や自然科学科専任教員からの回答率は低いといっても60%前後であり、この種の調査では、まずまずの回答率といってもよいのではなかろうか。

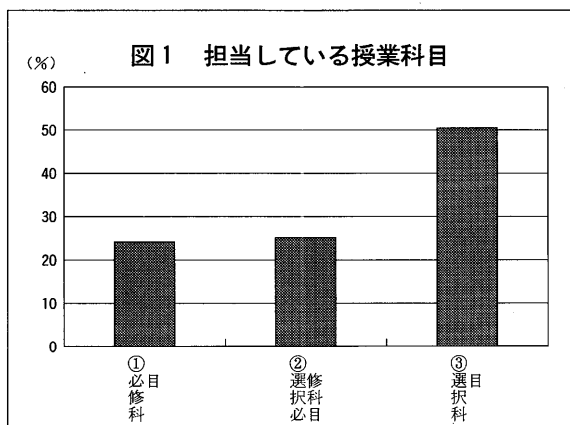
表1 実施状況

区分	授業担当 教員数	(回答科目数) 回答数	回答率
農業生産科学科	23	(24) 19	82.6%
応用生物化学科	17	(20) 16	94.1%
生産環境科学科	16	(32) 14	87.5%
附属農場	3	(3) 3	100.0%
附属演習林	1	(3) 1	100.0%
自然科学研究科	8	(5) 5	62.5%
非常勤講師	34	(20) 20	58.8%
合計	102	(107) 78	76.4%

## 2. 結果の分析

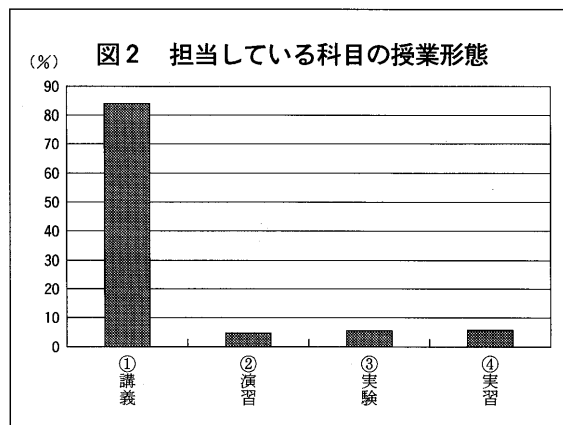
### 問1. 担当科目の区分

各教員は、必修科目を25%、選択必修科目を25%、選択科目を50%担当した状況であった。



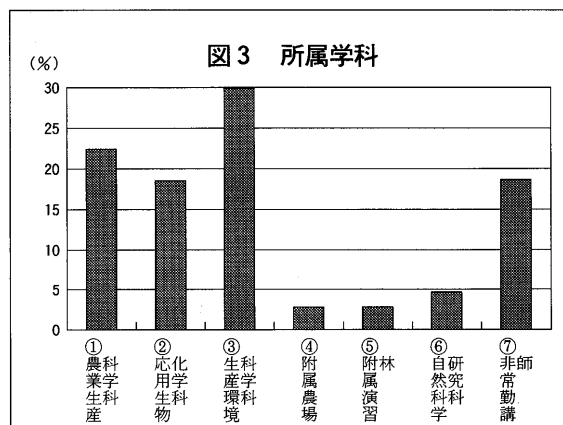
### 問2. 担当科目の授業形態

担当している科目の形態は、講義が85%を超え、演習、実験、実習は、5~10%の範囲内であった。



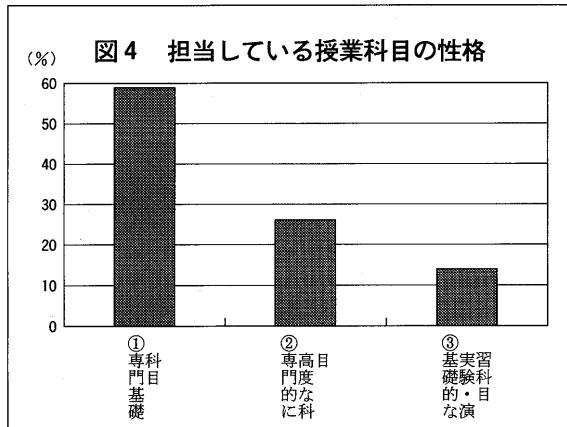
### 問3. 所属学科

教員の所属は、農業生産科学科が23%、応用生物化学科が18%、生産環境科学科が30%を占めていた。その他では、非常勤の講師の教員が18%と多かった。その他に、自然科学研究科が4%、附属農場、演習林の教員がそれぞれ3%づつであった。



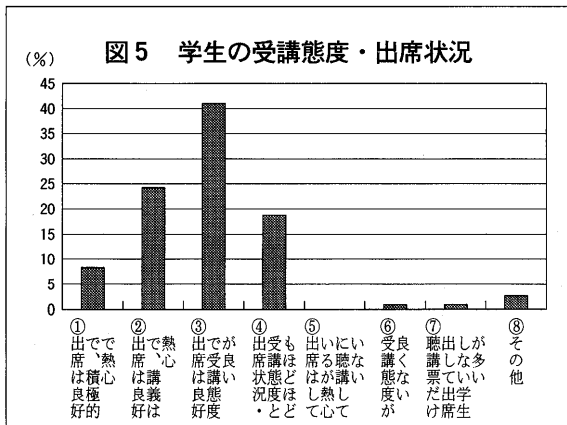
### 問4. 授業科目の性格

担当している授業科目では、専門基礎科目が、約58%と多く、次に、専門的に高度な科目が約27%、また、基礎的な実験や演習科目が10~15%であった。



問5. 学生の受講態度及び出席状況

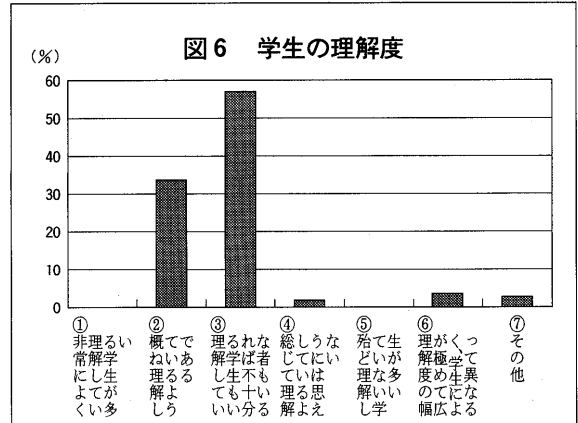
学生の受講態度や出席については、「出席は良好で受講態度が良い」とするものは、40%を超えた。かつ、「出席は良好で、講義は熱心に受けている」とするものが25%弱である。これらは、いずれも、「受講態度が良くない（1%）」や、「出席しない学生が多い（1%）」を大きく上回る。したがって、学生の出席や、受講態度は、大いに評価できると考える教員が多いものと推察される。



問6. 受講学生の理解度

学生の理解度については、「理解している学生と不十分な学生がいる」とした教員が57%を超えた。また、「概ね理解しているようである」とした教員も33%強であった。したがって、「学生の理解は、授業によって得られている」とする教員が約90%いることになる。「理解しているようには思えない」としたり、「理解度の幅が極めて広く、学生によって異なる」とした教員が4%未満であった。

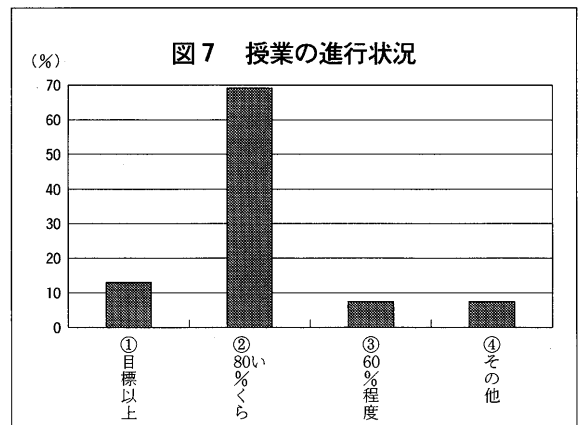
このことは、教員の評価として捉えることはできるが、真の理解度がこのように90%をこえることがあり得るのかどうか。今後のアンケートの調査方法にも、少なからぬ示唆を与える結果となっている。



問7. 授業の進行状況

授業の進行状況については、「シラバスの目標の80%くらいは達成できた」とした教員が、70%であった。かつ、「目標以上であった」教員が13%存在した。したがって、約83%の教員が、目標の80%以上を達成できたと考えていることになる。

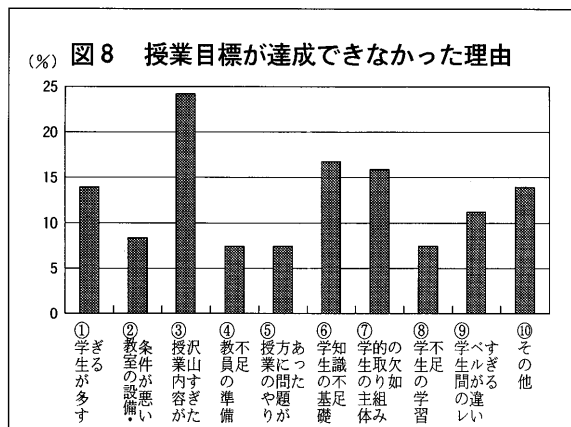
このことは、学生の捉え方、進行の受け取り方と、教員側のギャップの存在を意味する。



問8. 授業目標が達成できなかった理由（複数回答可）

思ったほど授業目標が達成できなかった場合、その理由は、教員側に「授業内容が沢山過ぎた」場合が見受けられ（24%）、また、学生の側に、「基礎知識の不足（17%）」、「主体的取り組みの不足（16%）」などがみられたことが原因と考えられる。

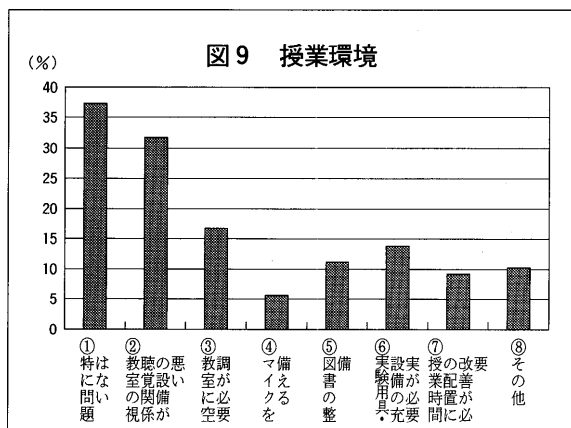
その他の意見として、参考書の不足、学生の数学的基礎知識の不足、高校での理科の履修科目の不均衡があげられている。また、集中講義のために休講せざるをえなかったため、という意見もあった。



問9. 授業環境について

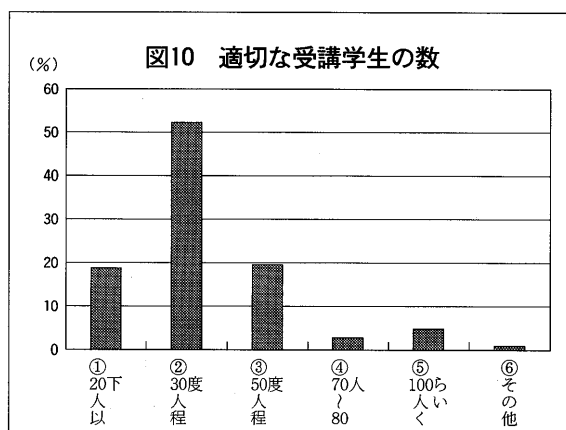
「特に問題がない」と答えている人は37.4%にすぎず、31.8%の人が「視聴覚関連の設備の悪さ」を指摘している。具体的にはOHP、スライドプロジェクターを全教室に設置することを希望しているが、これが無理としても各階毎に数台の配備の実現を望んでいる。夏の暑さ対策として、「各教室に空調の設置」を17%の人が望んでいる。「実験の用具・設備の充実、図書の整備の必要性」を12~15%の人が指摘している。

その他の意見として、教室関連では、カーテンが切れている、ホワイトボードやスライド式黒板が欲しい、受講生の数が多く教室が狭い、等がある。教材関連では、市販ビデオソフトや情報処理用パソコンソフトの不備をあげている。



問10. 適正な受講学生の数について

最も高い数字となった52.3%は「30人程度」、19.6%は「50人程度」、18.7%が「20人以下」となっており、約90%の人が50人以下の数を適正規模と考えている。授業形態によっては70~100人の学生でも対応可能と考えている人が8%位いる。授業改善の学生アンケートの結果によると、約6割の学生が一切の予習なしに授業を受けていることがわかった。この現状からは、小人数での対応が必要と考えられる。

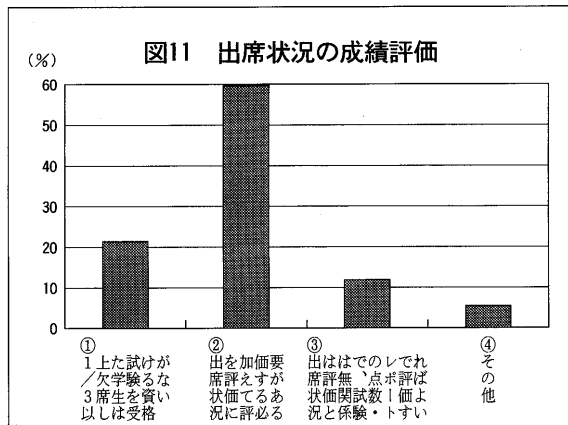


問11. 成績の評価方法について

A. 出席状況の成績評価

約60%の人が「出席状況を評価に加えて評価する必要がある」と答え、「出席状況は無関係で、試験の点数・レポートで評価すればよい」と考えている人は12.1%となっている。複数回答の可能性があるので、「1/3以上欠席した学生は試験を受ける資格がない」の数値21.5%を「出席を評価する」とは考えにくい。むしろ「出席を評価する」と答えた人の中で、特に出席状況の悪さを指摘した人の数値のように思える。

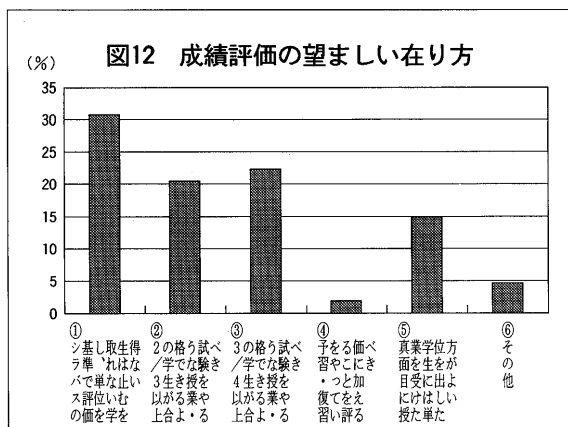
その他の意見として、大学なので出席はどうでも良い、基本的に出席状況と評価は無関係と考えるが、試験成績が悪い場合、出席状況を加味する、試験の点数が70以上の学生は出席を考慮しない、試験の点数が70以下の学生は出席と演習問題の提出回数を考慮する、出席状況とテストは概ね比例している、出席の悪い学生は試験成績も悪い、講義の内容や形態にもよる、実習では出席状況が主な成績評価の基準になる、などがあつた。



**B. 成績評価の望ましい在り方**

「シラバスの基準で評価し、単位を取れない学生は止むを得ない」が30.8%で、一方、相対する「真面目に授業を受けた学生には単位を出したほうがよい」は15%であった。学生のレベルを考慮した評価をする意見として、「2/3以上の学生が合格できる様な授業・試験をやるべき」と「3/4以上の学生が合格できる様な授業・試験をやるべき」がそれぞれ20.6%と22.4%であった。

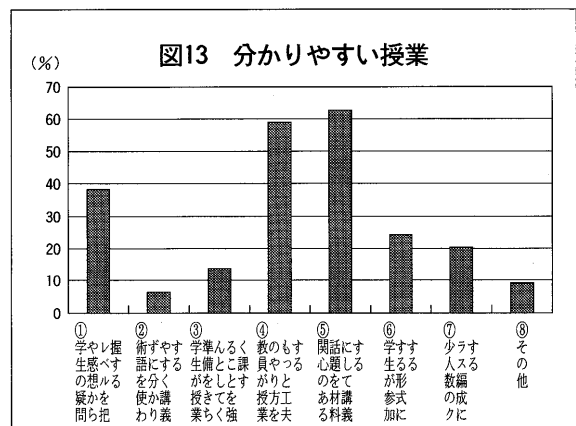
その他の意見として、常識的範囲で教員の自由裁量でよいのでは、実験・実習では試験をしないが毎日か試験である、理解して欲しいことを理解できたかどうかが問題である、授業内容に関心を示したり、自ら調べる学生は特別に評価したい、などの意見があった。



**問12. わかりやすい授業 (複数回答可)**

「関心のある話題を材料にして講義する」が60%強、「教員が授業のやり方を工夫する」が60%弱と最も多く (この回答はは内容が重複している)、次いで「学

生の疑問や感想からレベルを把握する」の順である。いずれも教員が自分の努力で行うことが可能な回答を選択している。多くの教員が可能な範囲ですでにこのような努力をしているにちがいない。「学生が参加する形式にする」、「少人数のクラス編成にする」等が選択肢としてあげられているが、それが望ましいと多くの教官が感じているであろうが、聴講する学生の人数から考えてほとんどの授業では現実的には不可能である。そのためか、これらの回答を選んだ教員の割合は比較的少ない。実際に、「その他」の意見の中にもこの点を指摘したのが見受けられた。また、「わからないところを自分で調べることが出来ないのでは大学生といえない」など、講義を受ける側に問題があるとの意見もいくつか見受けられた。

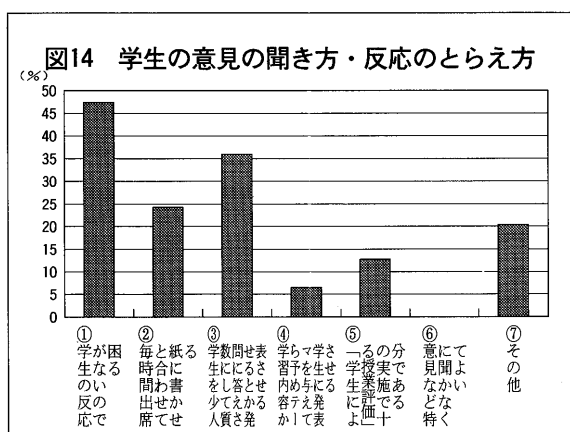


**問13. 聴講学生の意見の聞き方 (複数回答可)**

半数近くの教員が、「学生の反応がないので困る」という回答を選択している。これほど多くの教員が学生の反応がないと感じていることに驚かざるを得ない。講義中に学生から質問がでない、学生がほとんど自習をしないということも教員の間で良く話題になる。これらが本当に、今の学生が受動的になってしまっていることを意味しているのか、それとも講義をする立場になるとより積極的な学生の関与を求めたくなり、そのためにそう感ずるのか調べてみる必要があるかもしれない。次いで多いのが、「受講学生を少人数にして質問に答えさせるとか発表させる」という回答である。これはたしかに理想的ではあるが、学生定員・教員数・教室数・必要単位数などの制度上の問題と直結しており、多くの講義にとって実質的に実現は困難であろう。

現状では聴講する学生が多すぎてこのような方法によって学生の意見を把握することが出来ない、という制度上の批判としてとらえるべきであろうか？

「その他」として、具体的に記入した内容を見ると多くの教員が実にさまざまな努力をして受講学生の意見を聞こうとしていることがわかる。学生の反応がないということを半数近くの教員が感じており、いかに多くの教員がこのことに危機感を抱いているかということの反映ではないだろうか？

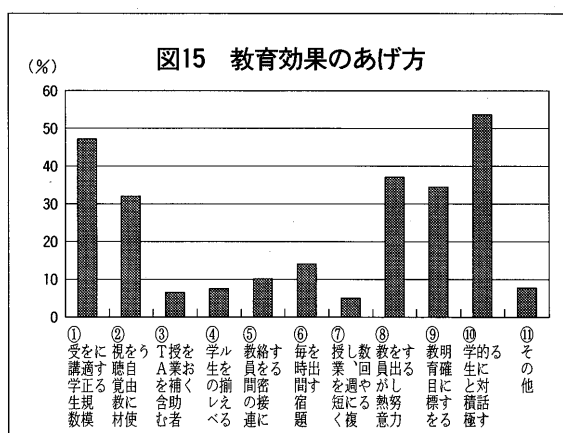


問14. 教育効果の上げ方（複数回答可）

「学生と積極的に対話する」という回答が最も多く50%以上で、次いで「受講学生数を適正規模にする」が50%弱。そのほか、他の回答と比べ特に多い回答は「視聴覚教材を自由に使えるようにする」、「教員が熱意を出し努力する」、「教育目標を明確にする」、であった。このうち「受講学生数を適正規模にする」や「視聴覚教材を自由に使えるようにする」は予算や制度と深く関連しており、個々の教員の努力だけではいかんともしがたい。特に「受講学生数を適正規模にする」は、必要単位数を大幅に減らすか、学生定員を減らすことなしに実現は不可能である。「教師が熱意を出し努力する」、「教育目標を明確にする」、「学生と積極的に対話する」、は一見どれも個々の教員の努力によって実現可能なことのように思える。しかし、数多くの学生を相手に密度の濃い対話は困難であるので、「学生と積極的に対話する」、は現状では受講学生数が適正でないという制度上の問題を示唆した「受講学生数を適正規模にする」の回答と密接に関連しており、必ずしも個々の教員の努力だけで実現可能なこ

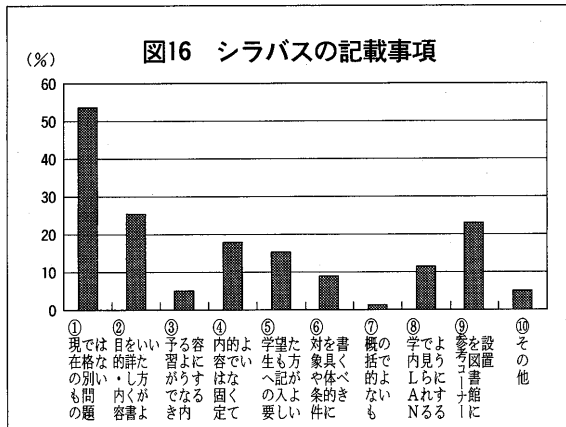
とでわれない。また「学生と積極的に対話する」は、問13で「選択した学生の反応がなくて困る」という回答を約半数の教員が選択したことと関連している様にも思える。学生の反応がなく、講義の上での意思の疎通が困難になって来ているという現状を、何とか打開したいとの多くの教員の思いがこの回答にも反映されているのではないかと。

この種の調査のほとんどに言えることだが、個々の教員の努力によって改善可能な部分と、制度予算が関係しより長期的な視点で改善の努力をすべき問題を明確にして整理する必要があるであろう。



問15. シラバスの記載事項について（複数回答可）

「現在のものでも格別問題はない」が42件、53.8%が最も多く、「何を目的とし、何をやるのか詳しく書いた方がよい」、が20件、25.6%、「記載内容に即したテキスト・参考文献コーナーを図書館に充実する」が18件、23.1%、「学生の状況により変化させる必要があるのでは、内容は固定的でなくてよい」、が14件、17.9%となっている。過半数は現在のものでもよしとしている。しかし、その他の自由意見では、「本の目次のような項目が並んでいるだけの物は学生にとってつまらないのでは」、の意見もある。同時に、「シラバスに対する学生の意見を聞いてみたら」との意見もある。「記載内容に即したテキスト・参考文献コーナーを図書館に充実する」、に関連した自由意見では、図書費用もばかにならないとの切実な意見もあった。

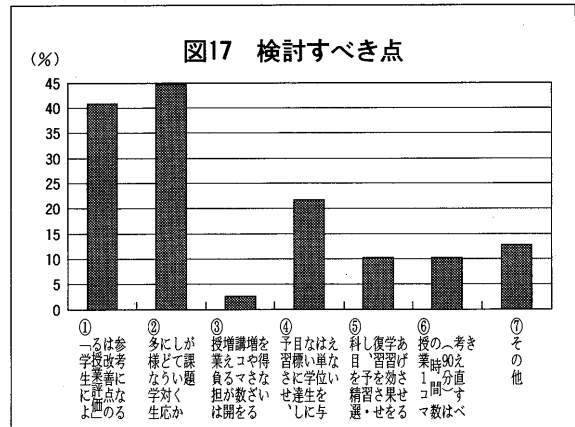


問16. 今後、検討すべき問題点、授業の中に活かすべき点、課題等についてどのように考えるか（複数回答可）

「多様な学生にどう対応していくかが課題である」、が35件、44.9%と最も多く、次いで多いのが、「学生による授業評価」は改善すべき点が良くわかり、参考になる、の32件、41%である。この「多様な学生にどう対応していくかが課題である」は、平成7年度第1学期の教養科目のアンケートでも、最も高くなっている。学生の多様化は、今後も益々進むと予想されるので、専門課程でも目的別・レベル別などを考慮したカリキュラム編成を検討する必要がある。教員自身が、学生のアンケートを自覚している点は高く評価される。一方で、「単位制の意味を明らかにして、予習をしていくことを義務づけ、到達目標に達しない学生には単位を与えない」、が17件、22%あった。学生にいかにも勉強させるかが、重要になってきていることを、多くの教員が自覚している。

その他として、教員、学生の講義に対する集中力から1コマ時間数を考え直すことが指摘された。教員一人あたりの授業数が多すぎるの意見が出された。全学出動の推進も図られようとしているが、理科系は、大学院の指導もあり、教員の授業負担の問題は大きい。学生が勉強しなくなっているが、単位取得の統一した基準を作ることにより、学生の勉強の習慣を作る、あるいは出席していても内容を理解していない学生には単位を与えない等が大切である。その一方で、学生の自主性にまかすべき、あるいは多様な学生でなく、むしろ均一化した学生に対していく方が問題、授業方法

の研修機会を設ける、等の多彩な意見が出された。



問17～問20. 記入無し

### 3. おわりに

いままでの学生による授業評価にかわり、授業担当教員へのアンケート調査の結果を分析してみたが、以下のようにまとめることができる。

（受講態度と理解度及び講義の進行状況）

教員側は、学生の受講態度は概ね良好であり、授業によって各科目の理解は得られていると考えている。また、多くの教員が授業の進行もシラバスに記した目標を十分達成したと考えている。

しかしながら、学生の授業に対する評価や、現実の試験成績をみると、学生の捉え方と教員の考え方の間に大きなギャップの存在を認めざるを得ない。

（授業環境）

教員側は、視聴覚設備、実験装置、図書の整備、夏期の教室の空調などについての改善を望んでいる。また、学生の理解度を高めるためには、受講学生数を少人数にすることが必要と考えている。前者はまだしも、後者については、現行のカリキュラムを大幅に縮小しない限り不可能である。

（成績評価）

「大学なのだから成績評価と出席状況とは基本的に無関係である」、という考え方もあるが、「講義や実験（実習）・演習などへの出席を厳密にチェックし、成績評価に加味すべきである」、とする方が一般的であろう。さもないと、授業を行う意味が無くなってし

まう。なお、シラバスに成績評価の基準を明確に記した方がよいという指摘もあった。

(教育効果のあげ方)

「学生と積極的に対話しながら、熱意を持って行う」、というのが最大公約数的な見方である。しかしながら、「学生の反応が乏しい」、と感じている教員が半数を超えていることから、なかなか成果が上がらないことも事実である。長年にわたり受動的な学習に染まっている学生諸子の意識を改革するためには、一層の教員側の努力が求められる。この点で、実験(実習)・演習科目の果たす役割は重要である。

本アンケートの実施に当たって、多くの関係教員の協力を得た。また、本調査の遂行に当たっては大学教育開発センターからは資料提供や予算的な配慮を頂き、農学部学務係には事務的な手を煩わせた。記して感謝申し上げます。

新潟大学農学部教育検討委員会

委員長 鈴木教士

古市尚高 祝前博明

仲川洋治 渡辺剛志

阿部信行 早川嘉一

参考文献

新潟大学教育開発研究センター(1996)平成7年度第1学期教育改善のための教養科目担当教員へのアンケート調査の結果と分析、新潟大学大教センター年報、2、203-217.

新潟大学農学部教育検討委員会(1996)カリキュラム改善のための農学部学生へのアンケート調査結果、新潟大学大教センター年報、2、232-244.

新潟大学農学部教育検討委員会(1997)授業改善のためのアンケート調査結果～農学部学生による授業評価～、新潟大学大教センター年報、3、173-183.

新潟大学農学部教育検討委員会(1998a)平成8年度授業改善のためのアンケート調査結果～農学部学生による授業評価～、新潟大学大教センター年報、4、128-137.

新潟大学農学部教育検討委員会(1998b)授業改善のためのアンケート調査結果～農学部学生による授業評価～(その三)実験・実習、演習および情報科目、新潟大学農学部教育検討委員会、新潟大学大教センター年報、4、138-163.



## 教育改善のための授業担当教員へのアンケート

### 農学部教育検討委員会

昨年度から授業改善の資料とするため、講義科目、実験科目、演習（実習）科目及び情報処理科目を対象にしてアンケートによる授業改善の検討に当たっては、授業について学生から意見を聴取すると同時に、担当されている教員がどうとらえているかを聞くことは、重要であると考えられますので、授業についてアンケートをお願いすることにいたしました。アンケート項目として以下の質問項目を用意いたしました。アンケートの集計をコンピュータで処理するため回答はマークシート方式で行いますが、自由な意見も記述できるようそのための欄も設けました。

なお、アンケート回答の内容は教育改善の目的以外には使用いたしません。本アンケート調査にご協力くださるようお願いいたします。

アンケート回答に当たって

- (1) アンケートは学科別に集計します。  
また、必修科目、選択必修科目、選択科目別に集計します。複数の科目を担当されている場合は、それぞれの科目ごとに別葉で回答くださるようお願いいたします。  
その場合、問11までの質問は個々の科目についてお聞きする事項ですので、それぞれの科目ごとに記入し、問12以降の質問は科目全般についてお聞きする事項のため1回だけ回答いただければよろしいので、いずれか1科目の回答用紙に記入してください。
- (2) アンケートの回答は、記名でお願いいたします。マークシートの該当欄に授業科目名とお名前を記入願います。
- (3) アンケートの回答は、マークシートの該当する項目の番号を「線」でマークします。その他に該当する場合は、その他の番号をマークしてからその下の記入欄に具体的な内容を記入してください。  
複数回答可の質問には、最大3つまで選択しマークすることができます。

問1 担当されている授業科目は、当該学科では次の内どの区分になりますか。

- ①必修科目 ②選択必修科目 ③選択科目

問2 担当されている科目の授業形態は、次のうちどれですか。

- ①講義 ②演習 ③実験 ④実習

問3 所属学科は次のうちどこですか。

- ①農業生産科学科 ②応用生物化学科 ③生産環境科学科 ④附属農場 ⑤附属演習林 ⑥自然科学研究科 ⑦非常勤講師

問4 担当されている授業科目の性格は、次のうちどれに最もよく適合すると思われませんか。

- ①専門基礎科目 ②専門的に高度な科目 ③基礎的な実験（実習）・演習科目

問5 学生の授業態度・出席状況についてお尋ねします。次のうちどれに最もよく適合すると思われませんか。

- ①出席は良好で、積極的に熱心に学習している ②出席は良好で、講義は熱心に受けている ③出席は良好で、受講態度が良い方である ④出席状況・受講態度ともほどほどである ⑤出席はしているが、私語が多いなど熱心に聴講しては思われない ⑥受講態度が良くない ⑦聴講票だけ出して出席しない学生が多い ⑧その他（マークシートの記入欄に具体的に記入してください。）

問6 受講学生の理解度についてお尋ねします。次のうちどれに最も良く適合すると思われませんか。

- ①非常に良く理解している受講学生が多い ②概ね理解しているようである ③理解している学生もいれば不十分な者もいる ④総じて理解しているようには思えない ⑤殆ど理解していない学生が多い ⑥理解度の幅が極めて広く、学生によって異なる ⑦その他（マークシートの記入欄に具体的に記入してください。）

問7 授業の進行状況についてお尋ねします。シラバス（講義概要）に掲げた目標に対して達成度は次のうちどれに最も良く適合すると思われませんか。

- ①目標以上であった ②80%くらい達成された ③60%は達成された ④その他（マークシートの記入欄に具体的に記入してください。）

問8 思ったほど授業目標が達成できなかつた場合、その理由は何であると思いませんか。（複数回答可）

- ①受講学生が多すぎる ②教室の設備・条件が悪い ③授業内容が盛り沢山過ぎた ④教員の準備不足 ⑤講義が難しいなど授業のやり方に問題があった ⑥学生の基礎知識不足 ⑦学生の主体的取り組みの欠如 ⑧学生の学習不足 ⑨学生間のレベルが低いすぎる ⑩その他（マークシートの記入欄に具体的に記入してください。）

問9 授業環境についてお尋ねします。次のうちから適合すると思われるものをお選びください。（複数回答可）

- ①特に問題はない ②教室の視聴覚関係の設備が悪い ③教室に空調（冷暖房）が必要 ④マイク（拡声器）を備える ⑤図書の整備（図書館との連携強化） ⑥実験（実習）用具・設備の充実が必要 ⑦授業時間の配置に改善が必要である ⑧その他（マークシートの記入欄に具体的に記入してください。）

問10 クラスの受講学生の数はどれくらいが適切だと考えられますか。

- ①20人以下 ②30人程度 ③50人程度 ④70～80人 ⑤100人位 ⑥その他（マークシートの記入欄に具体的な数を記入してください。）

問11 成績評価についてお尋ねします。

A 出席状況を評価に加味することについてお尋ねします。次のうちどれに最も良く適合すると思われませんか。

- ①1/3以上出席した学生は試験を受ける（レポートを提出する）資格がない ②出席状況を評価に加え、評価することが必要である ③出席状況は評価とは無関係で、試験の点数やレポートに基づいて評価すれば良い ④その他（マークシートの記入欄に具体的に記入してください。）

B 成績評価の望ましい在り方についてお尋ねします。次のうちどれに最も良く適合すると思われませんか。

①シラバス（講義概要）に示した基準に基づき評価は厳格にし、単位を取得できない学生が出るのは止むを得ない ②2/3以上の受講学生が合格できるような授業・試験をやることができる ③3/4以上の受講学生が合格できるような授業・試験をやるべきである ④予習・復習をきちんとやっていることを評価に加えるべきである ⑤真面目に授業を受けた学生には単位を出した方がよい ⑥その他（マークシートの記入欄に具体的に記入してください。）

問12 未知の分野にも興味を示すとか、部分的に分からないところがあっても全体を把握できる学生が少なくなつたと言われています。いきおい、授業を分かりやすくすることが避けられません。そのためにどの様なことが必要と考えますか。（複数回答可）  
①学生の疑問や感想などからレベルを把握する ②術語（教式）を使わずに分かりやすく講義する ③学生が授業準備（予習・復習等）をきちんとすることを強く課す ④教員が授業のやり方（板書の仕方、視聴覚教材等の利用を含め）をもっと工夫する ⑤教員が準備をよくして、最近のトピックなどを取り入れ、関心のある話題を材料にして講義（演習・実習）する ⑥教員が一方的に講義するのではなく、学生が参加する形式にする ⑦学生数が多いので、少人数のクラス編成にする ⑧その他（マークシートの記入欄に具体的に記入してください。）

問13 受講学生の意見の聞き方、反応のとりえ方についてお尋ねします。次のうちから適合すると思われるものをお選びください。（複数回答可）

①学生の反応がないので困る ②紙に書かせると質問等がよく出てくるので、毎時間出席と合わせて書かせるとよい ③受講学生を少人数にして質問に答えさせるとか発表させる ④5回に1回を学生発表に当て、学習内容から予めテーマを与えて発表させる ⑤「学生による授業評価」の実施で十分である ⑥意見など特に聞かなくてもよい ⑦その他（マークシートの記入欄に具体的に記入してください。）

問14 教育効果をあげるにはどうするのが適切であると考えられますか。（複数回答可）

①受講学生を適正規模にする ②視聴覚教材が自由に使えるようにする ③TAを含む授業補助者をおく ④学生のレベルを揃える ⑤教員間の連絡を密接にする（オムニバス形式の場合） ⑥毎時間宿題を出す（テストをやらず） ⑦授業時間を短くし、週に回数回やる（セメスター制などの学期制をとる） ⑧教師が熱意を出し努力する ⑨教育目標を明確にする ⑩学生と積極的に対話する ⑪その他（マークシートの記入欄に具体的に記入してください。）

問15 シラバス（講義概要）の記載事項についてお尋ねします。次のうちから適合すると思われるものをお選びください。（複数回答可）

①現在のものを格別問題はない ②何を目的とし、何をやるのかなるべく詳しく書いた方がよい ③予習ができるような内容にする（学習の指針となる）必要がある ④学生の状況により変化させる必要があるもので、内容は固定的でなくてよい ⑤学生に対する要望も記入した方がよい ⑥聴講対象や受講条件を具体的に明記した方がよい（該当しない場合は受講拒否ができる） ⑦何をやるのか分る程度の概括的なものでよい ⑧データベース化し、学内LANでアクセスできるようにする ⑨記載内容に即したテキスト・参考文献コーナーを図書館に充実する ⑩その他（マークシートの記入欄に具体的に記入してください。）

問16 今後、検討すべき問題点、授業の中に活かすべき点、課題等についてどのようにお考えですか。（複数回答可）

①「学生による授業評価」は改善すべき点が多くわかり、参考になる ②多様な学生にどう対応していくかが課題である ③授業負担は増えるが開講コマ数を増やさざるを得ない ④単位制の意味を明らかにして、予習をしていくことを義務づけ、到達目標に達しない学生には単位を与えない ⑤学生が履修する科目が多すぎるので、精選させ、予習・復習をきちんとやっても学習効果をあげるよう指導する ⑥授業1コマの時間数（90分）は考え直した方がよい ⑦その他（マークシートの記入欄に具体的に記入してください。）

問17 学生に意欲を起させざる授業はどうか。ご意見があればお聞かせください。

問18 授業の実施にあたり、教材の開発、授業方法の改善等で工夫していることがありましたら、是非お聞かせください。

問19 「学生による授業評価」の質問項目、実施方法、参考になった点、その他、この種の試みについてご意見があれば記入ください。

問20 専門科目の在り方、実施の方法や体制及び時間割編成等について意見があれば、自由に指摘してください。また、このアンケートの設問に関係した補足意見があればお聞かせください。